

月 曜日	日にち		題 名	上映時間
	第2木曜日	第4金曜日		
7月	9日	24日	<p>君の名は・第3部(1954年・昭和29年)</p> <p>【主演】 岸恵子、佐田 啓二、淡島 千景、川喜多雄二</p> <p>【あらすじ】 北海道での再会もつかの間、アイヌ娘・ユミの激しい春樹への愛、そして真知子の夫・勝則の非情な仕打ちに、再び引き裂かれてしまった真知子と春樹。しかし、東京に連れ戻された真知子は、勝則との離婚請求の調停を家庭裁判所に申し出て、ひとり九州雲仙へと。春樹が東京に戻ったのは、不遇にも真知子が雲仙へと旅立った直後のこと。そんなある日、春樹の勤め先に勝則が姿を見せ言い放った。「真知子がおまえ以外の男と結婚するのなら、離婚してやってもいい」と…。三部作最終です。</p>	124分
8月	13日	28日	<p>ローマの休日(1953年・昭和28年)</p> <p>【主演】 オードリー・ヘップバーン、グレゴリー・ペック</p> <p>【あらすじ】 イタリアのローマを親善訪問した某国の王女が滞在先から抜け出し、そこで出会った新聞記者と1日だけの恋に落ちる様子を描いた作品。トレビの泉や真実の口など、ローマの名だたる観光スポットが登場する。</p> <p>同映画でアン王女(オードリー・ヘップバーン)がスペイン階段でジェラートを食べる名シーンから、同映画の公開日・8月27日が「ジェラートの日」として制定された。</p>	118分
9月	10日	25日	<p>蝉しぐれ(2005年・平成17年)</p> <p>【主演】 市川 染五郎、木村 佳乃、緒方 拳</p> <p>【あらすじ】 海坂藩の下級武士・牧文四郎の成長と、隣家の娘・ふくとの通い合いを描いた藤沢周平の代表作。藩内の抗争で父・助左衛門が切腹し、家禄が減らされる逆境の中、文四郎は剣の修行に励む。秘剣を伝授されるほど上達した文四郎は、再熱した内部対立の渦中に。一方藩主の側室となったふくも、藩主の子を産んだために抗争に巻き込まれ文四郎と再開する。</p> <p>最後に二人が想いを告げるシーン、文四郎が小舟に一人横たわり蝉しぐれに包まれる場面は感動必至です。</p>	131分

※ 下半期(10月～R9年3月)は7月にご案内を予定しています。